



"プロレス×保育士"
 新日本プロレス KUSHIDA選手
 キッズサポーター体験後 園長インタビュー



ブルーミングキッズ株式会社
 保育園きのね/川崎市
 園長 高澤 佳栄様

Q1. KUSHIDA選手にキッズサポーターとして参加していただき、通常の体制より1名多い保育でしたがいかがでしたか？

すごく助かりました。保育士と子どもたちが期待していた通り、公園を隅から隅まで使って走り回りとても良かったと思います。KUSHIDA選手は紙芝居を読むのもとても上手でした。子どもたちが釘付けになっていましたね。普段は自分の好きな絵本を読んで紙芝居には来ない子どももいますから。これは持って生まれた人を惹き付ける力だと思います。子どもたちもすごく嬉しかったと思うんですけど、私自身も学んだり、見直すきっかけになって、本当に良かったです

Q2. 保育士不足は長く課題としてありますが、日頃苦勞されていること、また工夫されていることはありますか？



「保育園きのね」ではパートの方が多いです。週1回来る方とか週4回来る方とか、皆さんと細かく話し合っ
てシフトを埋めているんですけど、近所の方が多いので、いざという時に交代するなどの対応がスムーズです。

Q3. 保育園きのねは、保護者及び地域の皆様も保育に携わっています。保育士だけでなく、保育士資格を持たない方の保育への関わりについて、お考えを教えてください。

(高澤園長)

以前の共同保育時代の良さを生かして、保護者の方に一緒にイベントの企画をしていただくなどしています。ただ、そのくらいしかできなくて、いまは運営するので精一杯です。隣近所の方に年末のご挨拶をする町内会に入っていると、子どもに年賀状を書いてもらうとか、そんなことをしています。

(KUSHIDA選手)

働いている保育士さんが、近所に住んでいるってだけで近所に根付いていると言えますよね。地域に見守られていると。

Q4. この機会に話しておきたいことはありますか

自分にとってはそうでもないですが、若い男性が働き出して、家庭を持って子どもを育てたいとなったときに、それなりの給料をもらえるような感じではないなと思います。男性保育士が少ないのはそういうことかなと思います。他にも学童保育の指導員さんとか、保育園よりももっと子どもが大きくて、体が大きくて、動きが激しい子どもを見守る、でも怪我をさせない、宿題もさせる。とても大変だと思います。とても能力がいると思うんですね。救急救命の知識も必要だし、近所の方とのコミュニケーション能力とか色々な能力が必要だと思います。現場を離れて管理職になるとそれなりのお給料があるかもしれませんが、ずっと現場にいるとお給料が上がらない。今は、処遇改善も進んで過渡期だとは思いますが。

子どもの育ちに寄り添う、また、見守るということについてですが、子どもが自分の力ってどのくらいかって測りながら高いところに登ったり、そういうのは子どもの能力が育つときに育つためのことをして、それをやめさせたら育たないんですよ。それを辞めさせてしまう園もあると思いますが、本当は多少の怪我をしながら、だんだん身体能力が高くなる。子どもは本能的に「今これをすると伸びる」ということを体が知っていて、高いところから飛び降りたり何度もチャレンジする。「危ないけどできるかも」と、子ども自身が考えてる動きは止めない。でもそれ以上やると子どもには見えない危険があるから、私たちが見守るということを同時にやらずにやっちゃいけない。経験と勘と、勉強と、いざという時の応急処置の知識も必要。遊びのプロフェッショナルとはそういうことかなと。それでいて、お絵描きや歌といった表現活動にもお付き合いするわけです。

